

鳴門地区生息環境づくりワーキングの報告

鳴門地区生息環境づくりワーキング

2018年11月27日に設置された「鳴門地区生息環境づくりワーキング」では、旧吉野川での自然再生事業において創出する環境や管理・活用等について検討を進めています。

2018～2019年度にかけて開催した4回のワーキングでは自然再生事業で創出する環境タイプ、目標、各ゾーンの面積割合、維持管理等について検討を行いました。

今年度は、2020年12月14日に第5回ワーキングを開催し、詳細設計の方針や、関連施設（アプローチ道、施設・トイレ）、ツル類のねぐら環境への啓発看板の設置について確認しました。また、2021年2月に第6回ワーキングを開催する予定です。

第5回ワーキング(2020年12月14日)

【主な内容】

詳細設計の方針について／関連施設について／ツル類のねぐら環境への啓発看板の設置について

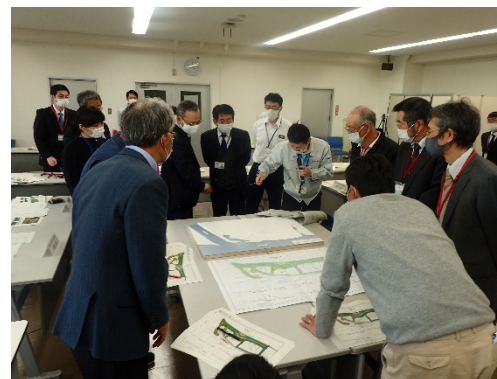
第6回ワーキング(2021年2月開催予定)

【主な内容(予定)】

詳細設計について

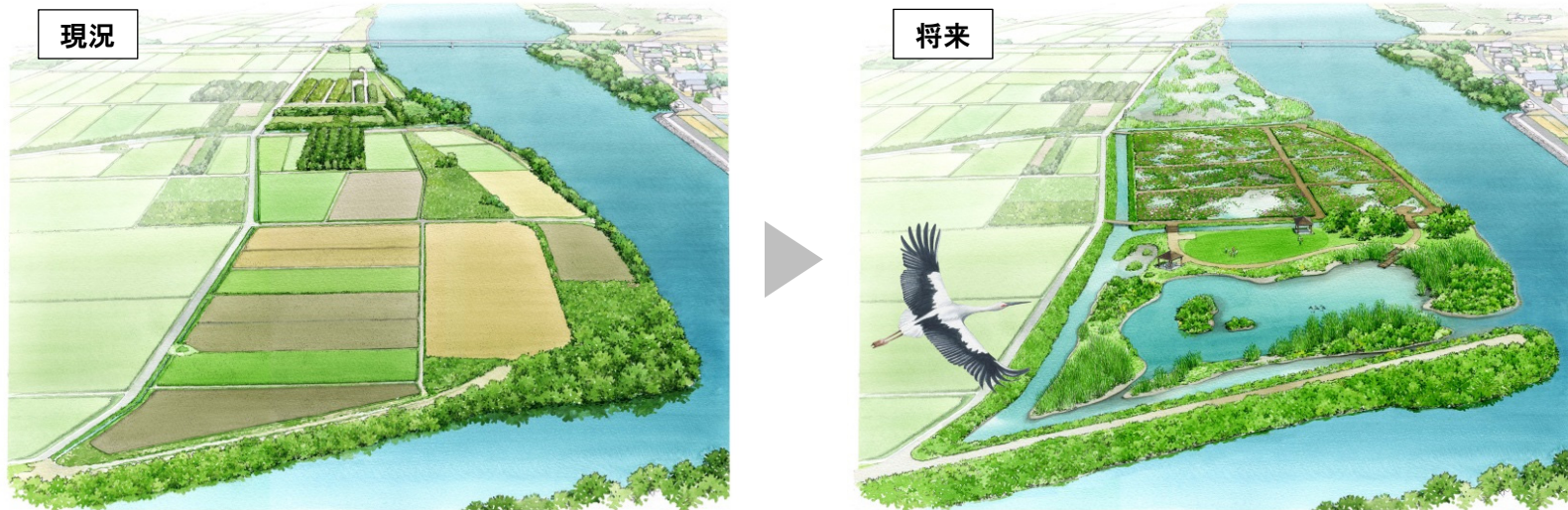
第5回ワーキング参加者

河口 洋一	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授 ◆座長
柴折 史昭	NPO法人とくしまコウノリ基金 理事・事務局長
仲野 聡	鳴門市市民環境部環境局環境政策課 課長
斎藤 純子	鳴門市経済建設部農林水産課 副課長
楠 智博	藍住町建設課 主任
竹村 昇	コウノリ定着推進連絡協議会 会長
天野 大	徳島県技術士会 理事
樫本 幸実	日本ビオトープ管理士会徳島支部 代表



旧吉野川での自然再生事業の概要

自然再生事業として、旧吉野川と板東谷川との合流部分の河岸の一部を掘削し、コウノトリの採食場所となる湿地やハス田のほか、その場所の環境を代表する生物（目標種）の生息場所（池・ヨシ原・水路等）を再生します。また、掘削により流下能力も高まります。



旧吉野川での河道掘削と合わせた湿地・ハス田の創出(イメージ)

目標種



タナゴ類



イシガイ科二枚貝類



ミナミメダカ



アジイトンボ



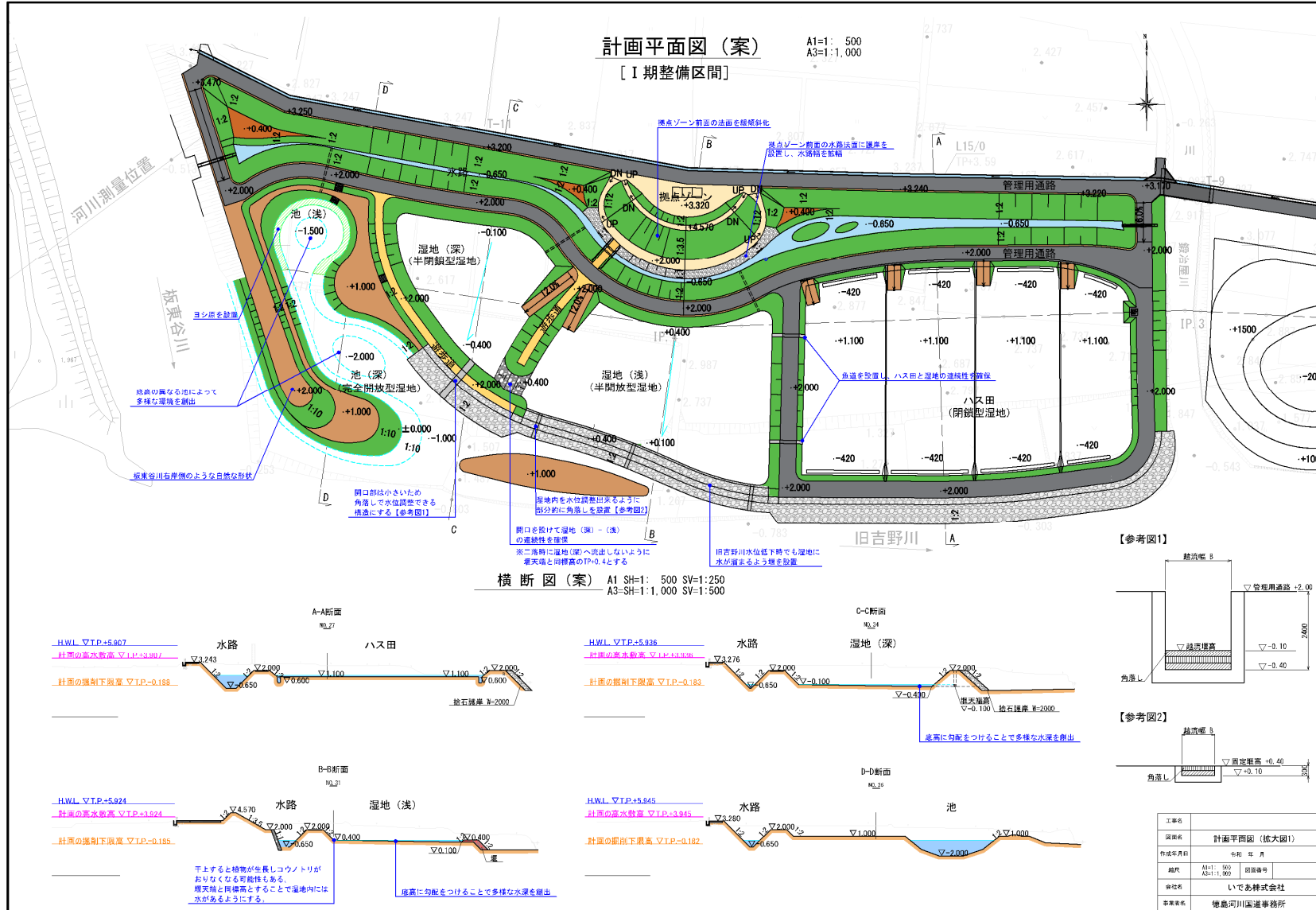
シマゲンゴロウ



ヒクイナ

詳細設計の方針について

景観分野の有識者である高知工科大学の重山陽一郎教授（国土交通省 景観施策アドバイザー（'16～'18））や、コウノトリ研究の有識者である兵庫県立大学の大迫義人准教授へのヒアリングも踏まえて既往設計からの見直しを行い、詳細設計に向けて、以下のような整備を計画しています。



第5回鳴門地区生息環境づくりワーキングでの主な意見

主な意見

詳細設計について

○生きものの生息環境の創出について

- ・湿地部分と旧吉野川との境界については開口部を設け、「半開放系湿地」としたほうが魚は出入りしやすいと思う。
- ・多様な生きものが住み着くよう、池の部分の深いところに、木の根を流れないように固定し、設置してもよいのではないか。
- ・各ゾーンや旧吉野川との水通しをよくするための管路は、後から設置するのは大変なので、なるべく多く設置しておいて、不要であれば使わなければよい。

○維持管理について

- ・湿地部分の管理について、地盤の傾斜が緩やかであればトラクターでも管理は可能だが、地盤が低く水深が30～60cm程度と深くなる場所についてはトラクターがはまる恐れがある。地盤は平らなほうが管理はしやすいと思う。
- ・湿地部分をトラクターで管理する場合は、年中水を入れて代掻きのように耕して管理するのがよいと思う。また、ヨシ等の植物の繁茂を抑える場合、年2～3回はトラクターですき込む必要がある。
- ・トラクターでの管理がいつまでできるのかということは考えておいたほうがよいと思う。
- ・堆積した泥を浚渫した場合の浚渫土や刈り取られた草は廃棄処分するのか、それとも、どこかに仮置きし堆肥にしてリサイクルするのか、その場合に置き場があるのかどうか、そうしたことも考えておいたほうがよい。
- ・水路部は自然護岸であれば植物がたくさん生える。水位が下がる時の水深が20cm程度であれば、泥や植物が堆積すると干上がる恐れがある。水路も土砂や草が堆積しすぎないように、管理をしないとイケない。

○活用について

- ・管理道は車椅子も入れるように、バリアフリーも考えて設計したほうがよい。
- ・子どもが水路の中に入って遊べるようにできるとよい。
- ・池の部分はバス釣りの船が入れないようにしたほうがよい。
- ・整備前に、近隣の小中学校とも一緒に、利用について検討できるとよい。

第5回鳴門地区生息環境づくりワーキングでの主な意見

主な意見

関連施設について

○アプローチ道について

- ・ 藍住町は小学校の児童が1学年で96名くらいいる。将来的に観光バスが通れるよう、アプローチ道のカーブ部分は広めにしておいたほうがよい。
- ・ 板東谷川沿いのルートについては自然観察路のような活用も考えられるのではないか。

○施設・トイレの設置、維持管理について

- ・ トイレは仮設のものでも利用のことを考えるとあったほうがよい。
- ・ コウノトリに限らず、旧吉野川の生きものなどを観られるような展示施設があるとよい。
- ・ 簡単な展示物や利用上の注意事項が用意されている施設があればよい。
- ・ 1期整備区内にトイレや施設しなくてもよいのではないか。
- ・ トイレや施設を設置する場合は駐車場側に集中させるほうがよい。



第5回鳴門地区生息環境づくりワーキングで施設、トイレの設置に関して以下の同意が得られた。

- ◇トイレは仮設のものでも設置する。
- ◇トイレや施設を設置する場合は駐車場側に集中させる。